

CI				491002	
				担当部署	
CI				生化	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項			特記事項なし		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→			
	2	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→生化学→			
	3	電子カルテ→指示①→検査→*3.緊急→			
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報			ハロゲン化物が共存する場合、偽高値する		
検査受付時間			緊急対応(24 時間)		
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項			特記事項なし		
検体採取の特別なタイミング			特記事項なし		
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	他材料	10 青	分離剤	8	mL
3	新鮮尿	23 スピッツ	なし	10	mL
4	蓄尿	22 蓄尿	防腐剤、尿量インジゲーター	10	mL
5	髄液	3 5 滅菌管	なし	10	mL
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
検体搬送条件			室温		
検体受入不可基準			1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体		
保管検体の保存期間			冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)		
検査結果・報告					

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		当日中～翌日				
生物学的基準範囲		101-108mmol/L(血清) 日本臨床検査標準化協議会 共用基準範囲より				
臨床判断値		設定なし				
基準値					単位	mmol/L
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
101	108	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値		高値	設定なし			
		低値	設定なし			
生理的変動要因		特記事項なし				
臨床的意義		「血清および尿」水・電解質代謝異常や酸塩基平衡障害が疑われるときには、血清及び尿中 Cl 濃度の測定が不可欠である。通常 Cl が単独で測定されることはなく、水・電解質代謝異常や酸塩基平衡異常の状況把握するために Na、K、HCO3-などと同時測定されること多い。日本臨床第 7 版 267,2009				
		「髄液」髄液の蛋白、グルコース、クロールなどを測定することによって、中枢神経系に生じている病的状態を正しく把握するための重要な情報が得られる。特に、蛋白の増加、糖価の低下は、髄液細胞数の増加とともに、中枢神経系の炎症、特に髄膜炎、脳炎の診断および重症度の評価に有用である。 日本臨床第 7 版 1 176,2009				